

天白まちづくり会報

(第6号)

天白まちづくり協議会（天白公民館内）

平成23年1月1日発行

新年 あけまして おめでとうございます

新しい年を迎えて

天白まちづくり協議会
会長 伊藤 末治



天白地区の皆さん、新年おめでとうございます。

昨年はまちづくり協議会が発足して二年目ということで種々計画しました行事を無難に実施することができ、たくさんの方々に参加していただきました。これもひとえにまちづくり協議会の役員各位の格別なお骨折りと、住民ひとり一人のみなさんが協議会結成の主旨を十分理解して積極的に参加し各種の行事を盛りあげてくださった結果だと総括し感謝しています。

特にメインイベントでありました「夏まつり」には、地元三雲中学校の卒業生で組織しておられる「ええやん祭実行委員会（代表・遠藤大輔氏）」の若さ溢れる20、30歳代の皆さんにも多数仲間に入ってもらい、津市の全国的に有



名な「高虎太鼓」や「よさこいソーラングループ」などをお世話していただき、炎暑のなかを1900余名の参加者と共に元気で過ごせたことが大変印象に残っています。

天白地区の皆さん、本年も天白まちづくり協議会の理念である「素晴らしい地域社会の維持並びに形成」に努めていただきながら、誰でもが『天白地区は住むのにええとこやなあ!』と笑顔で挨拶しあえる安心で安全な地域づくりに共に励んで下さることを祈念して年頭の挨拶とします。



新年のこあいさつ

松阪市副市長
小林 益久



新年あけましておめでとうございます。天白まちづくり会報の新年号発行にあたり、一言「挨拶申し上げます。

天白まちづくり協議会は「互助・共生の郷」を目指して、11の自治会、消防団、福祉会、PTA、農協、漁協、商工会など29の団体による構成で2009年（平成21年）3月に設立されました。この年の干支は己丑（つちのうし）で「新しい秩序が生まれる年」だそうです。その120年前である1889年（明治22年）の同じ己丑の年に町村制が施行され、天白村が誕生しました。当時の村は、原則として一つの小学校単位の大きさであった事を鑑みると、まさに原点回帰の事が起きています。

私の理想は「あるものを活かす



で、ないものを創る」というコンセプトでまちづくりをすることです。そして、「人の和」とは足し算でなく、掛け算だと思います。組織が大きくなる事による弊害もあるかもしれませんが、それに勝るプラス要因があると思います。天白地区で活動する団体が繁がる事により、新しい活力やアイデアが生まれると期待しております。また、本市としても、これら皆さんの活動を応援し、市民主体のまちづくりを促進していきたいと考えております。

本年の干支は辛卯（かのとう）であり、「更新して行く年になるそうです。

兎のように天白まちづくり協議会が大きく飛躍できる事をこ祈念申し上げます。

去年は こんな行事がありました・・・



☆ 救急救命講習会を実施しました

10月9日（土）防犯防災部（世古勝部長）が消防三雲分署員を講師に迎え救急救命講習会を実施しました。今回は協議会の役委員を対象とした講習会でしたが、いつ起こるかわからない災害に備え、次年度は地区民の方々を対象とした講習会を実施する予定です。

☆ 健康ウォーキングで体力づくり

12月18日（土）ハートフルみくもを中心に健康ウォーキングを健康福祉部（花井忠和部長）主催で開催をしました。

当日は少し風があったものの、ウォーキングには絶好の天候で参加者の皆さんは、額にうっすらと汗を浮かべ、年末年始を元気に過ごせるようにと、体力づくりをされました。



☆ みんなで「凧づくり」

教育文化部（西村武史部長）では、昨年引き続き、12月19日（日）に「凧博士」の坂井田 茂さんを講師に招き、新年に大空に掲げる「凧」づくりを行いました。

みんな自分の凧が大空高く揚がるようにと、真剣な眼差しで作製しているのが印象的でした。

みんなの凧が大空高く揚がるといいね！

なお、前四号までに掲載いたしました行事については、紙面編集上、今回割愛しています。

これからは、こんな行事が予定されていま～す

たこあげ大会開催について

教育文化部（西村武史部長）では、昨年12月末に天白公民館で作製しました「マイたこ」を、新春の夜空へ飛ばそうと「たこあげ大会」を次のように企画しましたので、寒さに負けない元気な子供（大人もね）達の参加を待ちます。

【とき】

・1月9日（日）午前10時から
雨天の場合、翌日の同時刻より

【ところ】

・ハートフルみくも東駐車場

【賞品】

・優秀賞・参加賞・その他

【その他】

- ・当日会場では、あつらい豚汁を用意してお待ちしています。
- ・当日の飛び入り参加も大歓迎ですが、希望される方はできる限り事前に連絡をお願いします。（夙づくり参加者は不要です）
- ・なお大人の部は団体で参加してください。
- ・詳しくは、天白公民館（56-7920）へお尋ね下さい。

「お雛まつり」の実施

今年の桃の節句には、公民館において石でつくったお雛さまをかざり「お雛まつり」を教育文化部が実施いたします。

いろいろな形の石を組み合わせ、かわいい「お雛様」ができて、あがる事でしょう。

皆さんも楽しく参加してください。

【とき】

・2月27日（日）

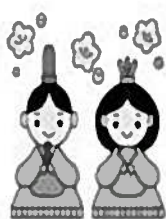
午前10時～13時まで

【ところ】

・天白公民館

【その他】

- ・当日はビンゴゲームや、ちよつとした会食も用意する予定としていますが、詳細については、改めてご案内させていただきますのでご了承ください。



昨年の作業風景より

カーブミラーをきれいに

環境美化部（森嶋宏部長）では3月27日（日）に、地区内に設置されているカーブミラーの清掃を実施します。

新年度をもうすぐ迎えるこの時期、交通弱者を事故から守る手段として、カーブミラーの汚れを落とし、本来の役割が果たせるようにとの計画です。
実施前には再度ご案内しますので皆様ご協力をお願いいたします。

曾原獅子舞保存会からのお知らせ

曾原獅子舞保存会では、元旦の午前9時より天白神社境内において「獅子舞」の奉納を行います。松阪市文化財にも登録されている「獅子舞」をご覧下さいますようご案内いたします。
なお雨天の場合は、曾原公会所で行います。

このコーナーでは、天白地区に伝わる伝統芸能・行事を紹介していきます。

第3回目は、「曾原新田の虫送り」をご紹介します。

「曾原新田の虫送り」

稲作を害虫から守り、豊作を願う行事である虫送りは、明治以降昭和初期の戦火が激しくなるまでは、どの地域でも行っていました。三雲地域で現在行っているのは曾原新田と基目だけである。

虫送り行事は、稲の害虫を田から追い出し、豊作の願いを込める行事であることから、戦後、誘蛾灯の設置や薬剤散布によりほとんどの地域で廃止となりました。

しかしながら曾原新田の人達は、虫送り行事は地域の伝統文化であるとして、次世代に引継ぎ後世に残す責任があるのでとの事から、約30年程前の地区の初寄り合いで、伊藤正利氏が発起人として提案・承任された事で復活し、現在まで引き継がれています。

現在は7月の第3土曜日に行つて



虫送り行事に使われる松明

おり、松明づくりは長老の指導で作製し、周囲にまきつけた麦わらを12箇所（閏年は13箇所）縛り、桃の小枝とみょうがの葉を挟んで飾り付けをしています。

昨年は7月17日（土）午後7時過ぎに集会所近くの広場に集まり、虫送り行事について長老から受け継いだ謂われを森勝春氏が説明した後、一部家庭で作った松明も持ち寄り一斉に点火し、「出てけ、出てけ、田の虫出てけ」と云いながら排水路沿いの枯れ草を燃やしながらか海岸近くの広場まで行

進し、全ての松明が燃え尽きました。

このような伝統行事が地域の方々の努力により、夏の風物詩としていつまでも残る事を願いながら会場を後にしてきました。



川面に映える松明の火



編集委員一同

【編集後記】

今回の「会報」第6号が、私たち6名の編集委員が編集する最後の会報となりました。

掲載記事の内容や一字一句について全委員が何度も集まり議論を重ね校正発行してきましたが、初めての経験で戸惑う事も多々ありました。

ご愛読いただいた事に感謝するとともに、今後とも天白まちづくり協議会の活動にご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。